

2014年10月22日

2014年10月22日(水)
12:00(日本時間)解禁

<改訂版>
報道配布資料①:8ページ



Economic Research Institute
for ASEAN and East Asia

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS

【平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞】第2回受賞者を発表

日本から、今年100周年を迎えた宝塚歌劇団が「文化賞」を受賞！

【大賞】

マンモハン・シン (前インド首相)

【経済・社会科学賞】

ピーター・デーヴィッド・ドライズデール (オーストラリア国立大学名誉教授)

ノワン・グンウ (歴史学者)

【文化賞】

リティエー・パニユ (カンボジア映画監督) / 宝塚歌劇団

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS (平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞) は「大賞」、「経済・社会科学賞」、「文化賞」の3賞について第2回受賞者を下記の通り発表します。

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS は2年に一度、東アジア域内における経済面・文化面での地域統合、域内の格差是正、持続可能な成長社会形成を主眼に、質的に充実した東アジア共同体形成に資する優れた貢献を行った個人・団体に対し、国籍を問わず、授与される今回第2回目となる国際賞です。

また、本賞の授賞式典ならびに受賞を記念した基調講演、受賞者による記念講演を含む記念フォーラム「アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム」を2014年12月21日に奈良県において行います。多数のご参加をお待ちしております。

※ 本賞受賞に関する本人への直接の取材申込みはご遠慮願います。

<アジアコスモポリタン賞についてのお問い合わせ>

アジアコスモポリタン賞事務局
東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA)
Email: asiacosmopolitan@eria.org
Tel: Tel: +62 21 5797 4460 Ext. 201 (英語・日本語可)

<フォーラム内容・申し込みについてのお問い合わせ>

アジアコスモポリタン賞受賞記念フォーラム事務局
日本コンベンションサービス(株)内
Email: naraforum2014reg@convention.co.jp
Tel: 06-6221-5936
〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7

<第2回 ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 受賞者>

❖ 大賞

マンモハン・シン (Manmohan Singh)



1932年9月26日、パンジャブ州(現パキスタン領)生まれ。著書、「インドの輸出動向と自己持続成長の為の展望」(オックスフォード大学出版局)は、インドの貿易政策の根源となる初期の評論である。シン博士は、1948年にパンジャブ大学に入学。オックスフォード大学ナフィールド・カレッジでは経済学を学び、1962年に博士課程を修了、博士号を取得した。1972年にインド大蔵省首席経済顧問、1991年から1996年の5年間大蔵大臣を歴任。彼の経歴における数々の賞や栄誉などの中でも特筆すべきは、1987年インドで2番目に栄誉ある賞とされる「Padma Vibhushan」を受賞した事や、日本経済新聞を含む数々の協会や団体からの表彰も受けている事である。1991年からインド上院議会議員。2004年から2014年まではインド共和国首相を2期務めた。

❖ 経済・社会科学賞



ピーター・デーヴィッド・ドライズデール (Peter David Drysdale)

オーストラリア国立大学アジア太平洋カレッジのクロフォード公共政策大学院名誉教授。彼の主たる関心分野は、国際貿易・経済政策と外交、東アジア経済、オーストラリアとアジア太平洋との経済関係および直接投資である。ニューイングランド大学での学士課程終了後、1967年にオーストラリア国立大学で博士号を取得。1978年にフルブライト奨学金でエール大学に進学。同氏は、数多くの著書、論文を発表し、オーストラリア・東アジア・太平洋地域の政策に多大な影響を与えてきた。2001年日本政府より旭日中綬章を受章。専門は国際貿易政策論、日本経済政策論、東アジア経済論。



ワン・グンウ (Wang Gungwu)

華僑、華人の移民について研究し、多くの著書を執筆している歴史学者。1986年～95年に香港大学の副総長を務めた。現在はシンガポール国立大学の教授であり、リー・クワン・ユー公共政策大学院の役員会会長でもある。また、東アジア学会会長、オーストラリア国立大学の名誉教授でもある。1994年福岡アジア文化賞受賞。

❖ 文化賞



リティー・パニユ (Rithy Panh)

1964年カンボジア・プノンペン生まれ。クメール・ルージュの強制労働収容所で家族を失いながらも生き延びた氏は1980年にフランスへ移住。IDHEC(高等映画学院)で学んだ後、映画制作者として記憶の作業に専念することを決心。彼の初のドキュメンタリー作品「サイト2:国境周辺にて」は、タイ・カンボジア国境のクメール難民キャンプについてのものである。2002年、「S21 クメール・ルージュの虐殺者たち」はカンヌ国際映画祭で上映され大きな反響を呼んだ。また同氏はカンボジアに関する映像、写真、録音といった歴史的な資産を保存することを目的に2006年にプノンペンに開設された「ボファナ視聴覚資産センター」の創設者の一人である。氏の最新作、「消えた画 クメール・ルージュの真実」は2013年カンヌ国際映画祭「ある視点賞」を受賞、2014年のアカデミー賞外国語映画賞ノミネート作品に選出された。今夏以降、日本各地で順次上映されている。



宝塚歌劇団 (Takarazuka Revue Company)

1914年に兵庫県宝塚市で初公演を行って以来、今日も人気を集める未婚の女性だけで構成された歌劇団。現在では年間公演数約1300回、観客動員数約250万人を誇る劇団となり、2014年には100周年を迎えた。日々、夢とロマンに溢れる華やかな舞台芸術の創造と発信を続け、国内外の人々を魅了している世界的にも有名な劇団である。

東アジア・アセアン経済研究センターとは

(Economic Research Institute for ASEAN and East Asia/ERIA)

ERIA は、東アジア経済統合の推進を目的として、政策研究・政策提言を行う国際機関です。2007年の第3回東アジアサミットの議長声明等を受け、2008年にASEAN事務局において設立総会が開催され、正式に設立されました。本部はASEAN事務局があるインドネシアの首都ジャカルタにあり、参加国はASEAN 10カ国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)と日本、中国、韓国、インド、豪州、ニュージーランドの計16か国です。

ERIAは、政策研究事業の3つの柱として、「経済統合の推進」、「発展格差の縮小」、「持続可能な経済成長」を掲げ、調査分析・政策提言等の知的貢献を通じて、地域一体となった政策的取組を支援しています。域内の研究機関のネットワークなどと連携し各種政策研究プロジェクトを実施し、その成果を東アジアサミットやASEAN経済大臣会合等の場で各国首脳・閣僚を含む政策当局者に提言し、政策の実現を促しています。また、途上国の政策研究能力向上を目的とした人材育(Capacity Building)をはじめ、研究内容の普及と域内の産学官の幅広い関係者の意見交換の促進を目的として、各国において随時シンポジウム・セミナーを実施しています。

www.eria.org

広報担当窓口:

杉本 定省

Planning and Coordination Director

Tel: +62 21 5797 4460 Ext. 201

E-mail: sadami.sugimoto@eria.org

Crystal Rompis (Ms.)

Public Relations

Tel: +62 21 5797 4460 Ext. 112

E-mail: crystal.rompis@eria.org

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS

平城遷都 1300 年記念 アジアコスモポリタン賞

＜公式スポンサー＞



2014



Economic Research Institute
for ASEAN and East Asia

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS

平城遷都 1300 年記念
アジアコスモポリタン賞

背景



「世界の成長センター」として活発な経済成長を続ける東アジア地域では、アセアン(ASEAN・東南アジア諸国連合)を中心に、域内経済統合の動きが急速に進展しています。このような東アジア経済統合の動きの中で、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)は、地域の課題分析、政策の立案及び提言等を行ってきました。

一方、2015年までの構築が目指されているASEAN共同体は、政治、経済、文化の3つを柱にしています。これは、21世紀型の共同体実現に向けて、経済面とともに域内格差や環境問題等に対して、アジア全体での政策協調が必要であること、また、文化面の多様性を考慮し、個性と独自性を活かした地域統合の模索が必要であることを意味しています。

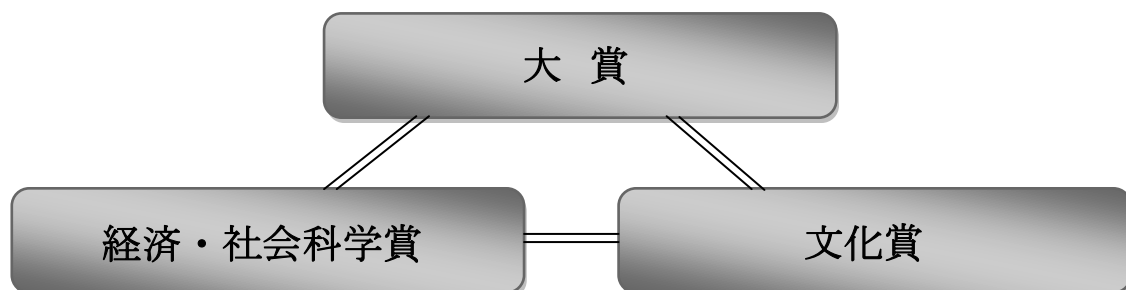
このような状況を踏まえてERIAはこれまでの活動に加え、平和で安定した東アジア全体の発展に一層貢献する取り組みを進めることが必要であると認識し、西暦2010年、奈良で開催したERIA NARA フォーラムを契機として、東アジアにおけるコスモポリタン都市の先駆けであった奈良・平城京への遷都1300年を記念し、東アジア域内における文化面・経済面での地域統合、域内の格差是正、持続可能な成長社会形成を主眼に、質的に充実した東アジア共同体形成に資する優れた活動を行った個人・団体を、国際的に評価顕彰することを目的として、ASIA COSMOPOLITAN AWARDS (平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞)を創設いたしました。

賞の概略

賞正式名称は「ASIA COSMOPOLITAN AWARDS」であり、日本における呼称は「平成遷都 1300 年記念アジアコスモポリタン賞」です。本賞は、東アジア域内における文化面・経済面での地域統合、域内の格差是正、持続可能な成長社会形成を主眼に、質的に充実した東アジア共同体形成に資する優れた貢献を行った個人・団体に対し、国籍を問わず、本賞発案の地、奈良県において原則 2 年に 1 回、授賞するものです。

賞の種類

ASIA COSMOPLITAN AWARDS には、大賞、経済・社会科学賞及び文化賞の3つの賞があります。なお、追加の賞を設置する場合があります。各賞の授賞対象者は、以下のとおりとなります。



❖ 大賞

経済・社会科学または文化の分野から最も顕著な功績のあった個人または団体に授与されます。

❖ 経済・社会科学賞

経済に関する学術研究、ビジネスモデル、産業技術、消費活動、安全保障、社会保障、政治学、哲学、その他社会科学全般において、優れた成果により、アジアにおける経済・社会科学面の育成、発展に貢献した個人または団体に授与されます。

❖ 文化賞

芸術、文学、コンテンツ、その他文化に関する学術研究等において、優れた成果により、アジアにおける文化面の育成、発展に貢献した個人または団体に授与されます。

第1回アジアコスモポリタン賞受賞者について

❖ 大賞



スパチャイ・パニチャパック (Supachai Panitchpakdi) 氏

タイ国籍。2005年9月より国連貿易開発会議(UNCTAD)事務局長(現在2期目)を務める。2002年から2005年までアジア人として初めて世界貿易機関(WTO)事務局長を、また、それ以前は母国タイで副首相、商業大臣を務めた経験を持つ。経済と貿易の政策策定に従事し、アジアにおける協定構築において大きく貢献した。また、カンボジア、ラオス、ミャンマーのASEAN加盟に対して尽力するとともに、ASEANの世界経済における役割の向上に顕著な貢献を行った。

❖ 経済・社会科学賞



ベネディクト・アンダーソン (Benedict Anderson) 氏

中国・昆明生まれ。ケンブリッジ大学で古典学の学士号、1967年コーネル大学大学院政治学研究科博士号取得。東南アジア地域研究者。特にインドネシア、タイ、フィリピンの各国の政治・文化研究における権威であり、これらの国の多数の著書がある。1983年の著書「想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行」が最もよく知られ34言語に翻訳されている。

❖ 文化賞



井上 雄彦 (いのうえ たけひこ) 氏

代表作に国内発行部数一億部を突破した「スラムダンク」、連載中の「リアル」、「バガボンド」がある。文化庁芸術選奨新人賞など受賞多数。美術館全体を使った「井上雄彦 最後のマンガ展」、真宗大谷派東本願寺へ描き下ろした屏風絵「親鸞」の制作など、これまでの枠を超えた活動も反響を呼んでいる。

❖ メモラブル賞(特別賞)



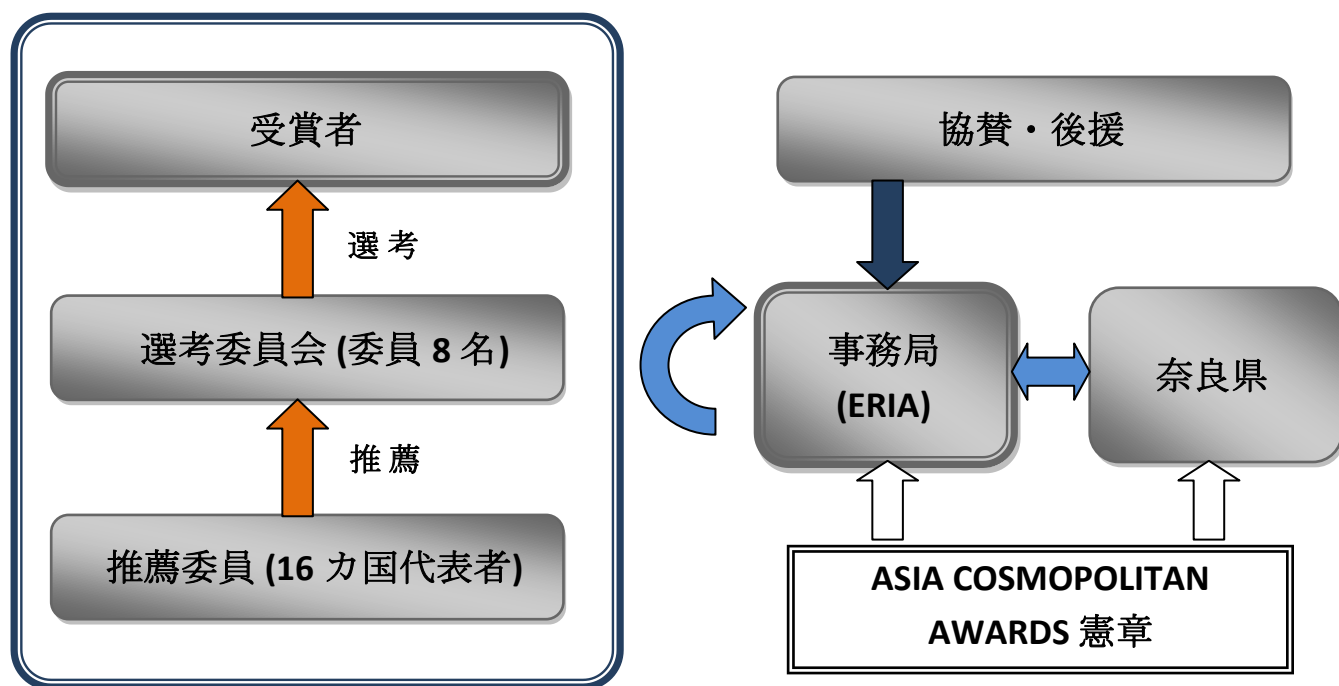
故ハディ・スサストロ (The late Hadi Soesastro) 氏

インドネシアのエコノミスト。インドネシア戦略国際研究所の創設者の一人であり、同所元所長。1999年から2000年までの間、インドネシア大統領の経済顧問を務め、また、世界銀行およびアジア開発銀行の顧問としても活躍した。アジア地域における著名な学者、知識人であり、インドネシアの経済のみならず、ASEAN経済共同体の形成の中心人物として、多くの地域機関・制度の構築活動に数多く関与した。

選考・審査プロセス

前述に関わる活動を対象に、東アジア 16 カ国を代表する経済・政策研究機関から成る推薦委員により、「文化」、「経済・社会科学」の各部門において候補者が推薦されます。著名な文化人、有識者、各研究機関、組織の首脳等から構成される選考委員会にて更なる吟味と厳選なる選考を行い、最終的な受賞者を決定します。

事務局となる東アジア・アセアン経済研究センターは、奈良県と緊密な連携の下に、「ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 憲章」に基づき、選考・審査を実施します。



選考委員会

各賞の授賞者を決定するため、「ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 選考委員会」を設置します。選考委員会の「選考委員」は、各界の有識者で構成され、次頁のとおりとなります。選考委員の任期は原則2年ですが、再任も可能です。選考委員は、推薦委員から推薦された授賞候補者を基に最終授賞者を決定します。

選考委員 (順不同)



有馬 朗人、武蔵学園学園長、元文部大臣、元東京大学総長



西村 英俊、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)事務総長



李 御寧、韓国初代文化大臣



ノロドム・シリブッド、カンボジア協力平和研究所会長

H.R.H. Samdech Norodom Sirivudh,
Founder and Chairman of the Board of Directors
Cambodian Institute for Cooperation and Peace (CICP)



松岡 正剛、編集工学研究所長

選考委員(続き)



荒井 正吾、奈良県知事



スリン・ピッスワン 前 ASEAN 事務総長



白石 隆、政策研究大学院大学学長、アジア経済研究所所長

推薦委員

選考委員会とは異なるメンバーで構成される「ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 推薦委員会」を設置し、その推薦委員は、各賞の受賞者の候補者を、選考委員会に推薦します。推薦委員の任期は原則2年とし、再任も可能です。

現在の推薦委員は以下のとおりです。

国名	研究機関	推薦委員
オーストラリア	オーストラリア国立大学 (ANU) クロフォード公共政策大学院	Dr. Jennifer Corbett, Pro Vice-Chancellor (Research & Research Training), Office of the Vice Chancellor
ブルネイ	ダルサラーム政策戦略研究所 (BDIPSS)	Ms. Tutiaty Abdul Wahab, Deputy Permanent Secretary at the Ministry of Foreign Affairs and Trade
カンボジア	カンボジア協力平和研究所 (CICP)	Dr. Chheang Vannarith, Former Executive Director, Cambodian Institute for Cooperation and Peace (CICP)
中国	中国社会科学院 アジア太平洋研究所 (CASS)	Dr. Li Xiangyang, Professor Institute of Asia-Pacific Studies
インド	発展途上国研究情報システム (RIS)	Dr. Biswajit Dhar, former Director General
インドネシア	インドネシア戦略国際問題研究所 (CSIS)	Mr. Yose Rizal Damuri, Head of Department of Economics
日本	日本貿易振興機構 アジア経済研究所 (IDE/JETRO)	平塚 大祐 理事
韓国	対外経済政策研究院 (KIEP)	Dr. Chang Jae Lee, Senior Research Fellow, Center for International Development Cooperation

ラオス	ラオス国立経済研究所 (NERI)	Dr. Leeber Leebouapao, Director General
マレーシア	マレーシア経済研究所 (MIER)	Dr. Zakariah Rashid, Executive Director
ミャンマー	ヤンゴン経済大学 (YIE)	Dr Khin San Yee, Minister of Education
ニュージーランド	ニュージーランド経済 研究所(NZIER)	Dr. Gary Hawke, Associate Senior Fellow
フィリピン	フィリピン開発研究所 (PIDS)	Dr. Josef Yap, President
シンガポール	シンガポール国際問題 研究所(SIIA)	Dr. Hank Lim, Senior Research Fellow
タイ	タイ開発研究所 (TDRI)	Dr. Wisarn Pupphavesa, Senior Advisor
ベトナム	ベトナム中央経済管理 研究所(CIEM)	Dr. Vo Tri Thanh, Vice President

事務局

授賞に係る事務の円滑な実施のため、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)内に「ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 事務局」を設置します。奈良県と緊密な連携の下に、主として選考委員及び推薦委員に関する事務、選考委員会開催、運営に関する事務、受賞者との窓口業務、広報・普及活動、情報、記録の保管を行います。

公式スポンサー・後援者

Asia Cosmopolitan Awards の趣旨に賛同し、一定の金額を供出頂いた個人または団体を公式スポンサーまたは後援者として募ります。国籍はいずれも問いません。

2012年の設立以来、全日本空輸(ANA)が本賞の公式スポンサーとなっています。

沿革

2010年

7月3-4日 「ERIAリージョナルネットワークフォーラム」(ERIA・奈良県主催)を開催。東アジア16カ国の著名な研究者、文化人により東アジア共同体の実現に向けた議論が行われた。その中で、東アジアの地域統合において、文化面の多様性を考慮した個性と独自性を活かした地域統合の重要性が認識され、「ASIA COSMOPOLITAN AWARDS(平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞)」創設のきっかけとなる国際賞創設の必要性が示される。

2012年

2月3日 「ASIA COSMOPOLITAN AWARDS (平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞)」の創設を発表。創設を記念したフォーラムを開催。本フォーラムで、本賞の意義やこれからの「コスモポリタン」の役割などをテーマにスリンASEAN事務総長(当時)の基調講演、日本文学者であるロバート・キャンベル氏の特別講演およびエッセイストの華恵氏、荒井奈良県知事らによるディスカッションが行われた。

11月16日 「平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞」第1回受賞者を発表。

カンボジア・プノンペンにおいて、東アジア各国(ASEAN10カ国+日本・中国・韓国・インド・オーストラリア・ニュージーランド)+米国の代表メディアの編集者(編集長 Editor in Chiefクラス)を対象とした「メディアラウンドテーブル」において日本と同時に受賞者ならびに授賞フォーラム内容を発表。

12月18日 「平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞」第1回受賞者を表彰する授賞式ならびに関連講演を含む「奈良フォーラム」を奈良県新公会堂において開催。

12月19日 「奈良フォーラム」の行事の一環として、受賞者による特別講義を奈良県下の大学において教育プログラムを実施。帝塚山大学において、大賞受賞者スパチャイ・パニチチャパクディ氏が、奈良女子大学では、経済・社会科学賞受賞者ベネディクト・アンダーソン氏が特別講義をそれぞれ実施した。

2014年

10月22日 第2回受賞者発表

カンボジア・プノンペンにおいて、記者会見と東京等アジア各国で記者発表。

12月21日 「アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム」開催予定 (～22日まで)

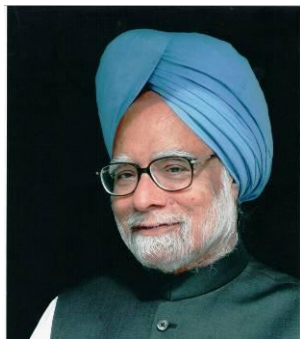
第2回(2014年)アジアコスモポリタン賞
受賞者・授賞理由



東アジア・アセアン経済研究センター

2014年10月

第 2 回アジアコスモポリタン賞大賞受賞 / マンモハン・シン



[授賞理由]

アジアコスモポリタン賞の本年の大賞受賞者はこの賞の性格を示している。分野や専攻に関わらず「アジアのコスモポリタン」であることを真に象徴する人物を選考したく、満場一致で H.E. マンモハン・シン博士を選んだ。

シン博士は既にインド準備銀行総裁(1982-1985)や大蔵大臣(1991-1996)を含むインドにおける多くの影響力のある地位に着いてきた。

彼は平和で安定的なアジア社会の発展、地域内の発展格差の縮小、文化的・経済的統合に向けての持続可能な社会的成長の確立に重要で有意義な貢献によってアジアコスモポリタン賞の本質を体現している。インドにおいては、特にインドの規制され管理された経済から自由市場経済、自由貿易、政府の規制緩和の原則に基づく経済への転換の開始は博士に帰すべきものである。その結果、規制や非効率性が減少し課税ベースや雇用創出、外資が増加した。インドは過去に教育、インフラストラクチャー、雇用等一般のサービスに関し国の資源の一部を再分配する目的で経済を規制し管理してきた。これにより経済のいくつかの分野が保護され非競争的となった。1991年にインドの大蔵大臣としてのシン博士の指導のもとで、インドは広範囲の民営化、官僚主義の減少、企業家精神の促進を導く政府／経済の全面的構造改革である一連の重要な変革を行った。

そうしてインドは初めて持続的経済成長とグローバル経済への真の完成への道を踏み出した。

彼はインドの成功した経済的転換の背後に控える大きな力そのものである。博士は首相の2004年から2009年までの任期中に継続して同様の経済改革の成功を収め、政府の財政赤字の減少、貧農の債務救済、産業促進のための経済及び課税政策に焦点を絞った。

シン博士は世界で最も輝く指導者の一人であり、政治家には極めて稀な特性である静かな気取らぬ人格は高い尊敬を集めている。彼はインドの指導者として地球上のモデルとも言うべき、最大の多民族、多言語、多宗教の高度民主主義国家を律してきた。我々は世界に適合するアジアを具現化した博士の人格を大いに賞賛するものである。

インドは十三億人を有する地球上2番目の大人口国であり、全人口の20%を占めているため当然ながら非常に重要な地位を保持している。従って私どもは第2回アジアコスモポリタン賞大賞を博士に授与することを誇りとし幸いとするものである。

第2回アジアコスモポリタン賞 経済・社会科学賞受賞

/ピーター・デーヴィッド・ドライズデール



[授賞理由]

今回のアジアコスモポリタン賞、経済・社会科学賞はピーター・デーヴィッド・ドライズデール (Peter D. Drysdale) 氏が受賞する事となった。アジア地域における献身、人々の経済への理解ならびに識見を深める手助け、社会科学とヒューマニティー発達への貢献を讃えての受賞となる。例えば、日本経済研究のパイオニアとしての彼の役割、豪日研究センター (AJRC) 設立者兼所長としての彼の仕事は、日本政府に認められ、2001年には旭日中綬章を受賞している。

彼の主たる関心分野は、国際貿易・経済政策と外交、東アジア経済、オーストラリアとアジア太平洋との経済関係および直接投資である。その専門分野は、日本経済と経済政策、中国の貿易・変容にまで及ぶ。研究の焦点は、アジア太平洋における経済統合の発展、ならびに東アジア、ヨーロッパ、インド、APECの相互関係が含まれる。

ドライズデール氏は、アジア太平洋経済、国際経済関係、外国投資、日本経済、経済政策に関する数多くの著書、論文を発表している。

- ・「The G-20 Summit at Five: Time for Strategic Leadership (5年目を迎えた G-20 サミット: 戦略的なリーダーシップを発揮する時) (Kemal Dervis 氏との共編、2014年)」
- ・「Asia-Pacific Economic Cooperation (アジア太平洋経済協力) (寺田貴氏と共編、2007年)」
- ・「East Asian Trade and Financial Integration: New Issues (東アジアの貿易と金融統合: 新たな問題) (石垣健一氏と共編、2002年)」
- ・「Reform and Recovery in East Asia (東アジアの改革と蘇生) (2000年)」
- ・「Asia Pacific Regionalism: Readings in International Economic Relations (アジア太平洋地域のリージョナリズム: 国際経済関係の見解) (1994年)」
- ・「The Economics of International Pluralism: Economic Policy in East and the Pacific (国際的多元性の経済学: 東アジアおよび太平洋地域の経済政策) (1988年)」

これらの著書、論文は、アジア太平洋経済協力 (APEC) 創設を知的基盤の構築を通じて手助けした。彼の研究は、オーストラリア、東アジア、太平洋地域の政策に多大な影響を与えてきた。加えて彼の謙虚さ、認容さ、寛大さ、魅力といった人間性においても、アジアコスモポリタン授与にふさわしいといえる。

第 2 回アジアコスモポリタン賞 経済・社会科学賞受賞 / ワン・グンウ



[授賞理由]

今回のアジアコスモポリタン賞、経済・社会科学賞はワン・グンウ氏に決定した。アジアに焦点を当てた学術研究および教育活動と異文化交流の重要性を認知した功績を称える。彼は今日のアジアにおいて、最も著名な学者・歴史家であり華僑を含む中国移民研究と中国および東南アジアの文明化研究の第一人者である。

ワン氏は学者としてだけでなく、彼は多くの学生を奮起させる教育者としてもその足跡を残している。最初にマラヤ大学で教鞭をとったのち、オーストラリア国立大学を経て、香港大学学長を1986年から1995年まで務めた。1996年から97年までシンガポール国立大学東アジア政治経済研究所所長、1997年から2007年まで同東アジア研究所の理事を務めた。これらの活動を通じて、彼は外交関係の向上や学際交流や異文化交流を促進させる重要な役割を担い、アジアとアジア社会のより深い理解を惹起した。更に彼は Australia-China Council の議長を1984年から1986年まで務めた。

彼の華僑、中国移民に関する研究は絶賛されている中で、アジア歴史研究におけるその業績は傑出している。彼が尽力したアジア研究を軸にした国際的学術交流への取り組みは大変意義深いものである。これらの功績は将来の幾世代にわたって道標とインスピレーションとなるものである。

彼は中国史の研究においても多大な貢献をしている。

彼の輝かしい学術キャリアにおいて、彼は世界各国の大学・組織で重要なポストを歴任してきた。世界でも指折りの歴史家であり、世界に東アジア理解を進める大きな原動力となった。

第2回アジアコスモポリタン賞 文化賞受賞 / リティイー・パニユ



[授賞理由]

アジアコスモポリタン賞に期待される文化賞は、文学、音楽、絵画など多様なジャンルの中で人々の日々の経済活動に関連し、東アジア共同体という遙かな理想の形成へつながる文化的貢献という観点に着目して選考された。第2回アジアコスモポリタン賞文化賞の個人部門はアジアを代表する映画監督であるカンボジアのリティイー・パニユ氏に授与される。

氏の代表作である「消えた画 クメール・ルージュの真実」は、人間の尊厳を根底に置き、その存在理由を否定したクメール・ルージュによる虐殺という悲劇に対してドキュメンタリー映画の手法により、大量虐殺の事実、イデオロギー的偏向と熱狂、それを許した国際情勢、さらにはクメール・ルージュそのものの崩壊のプロセスとその巨大な影響を真っ向から捕らえている。それは、アジアにおける組織的、長期的大量虐殺の事実を告発し、それを乗り越えて、カンボジアの未来を、更にはアジアの未来を築き上げようとする貴重な人々の営みを最も貧しい人々の視点を忘れることなく、多様な人々の個性を浮き立たせるということにより、全体像を鮮明に浮かび上がらせた。その作品の気高さや手法の斬新さ、さらに作品の背後に存在する含意は、絶望の中にも存在するアジアの英知というべきものに光を当て、世界の映画界に大きな衝撃を与えた。

2015年のASEAN共同体の形成を目前にして、様々な努力が懸命になされているが、より困難な問題を克服し、それを確立させるためには、各国の努力を高い立場から支え、推進する、ASEANアイデンティティの確立がますます重要なものとなってきている。それは、ASEANとは何か、東アジア共同体とは何か、アジアとは何か、経済的発展は何のためにあるのかという根本的問いに対する答えにいたるプロセスにおいて、避けては通れないものである。

氏は、すでに欧米において高い評価を映画監督として確立しているが、ASEANが共同体形成に向けて重要なタイミングを迎えているこの時期において、氏の業績は、各国のこれからの努力に対して原点に立ち戻り鼓舞するものであり、東アジア共同体の形成に向けての顕著な文化的功績を果たした個人に与えられるアジアコスモポリタン賞文化賞の受賞にふさわしい。

第2回アジアコスモポリタン賞 文化賞受賞 / 宝塚歌劇団



【授賞理由】

2015年までに構築することが目指されているASEAN共同体は、政治、経済、文化という三つの柱から成る。この文化共同体の目標は、民衆思考で共通のアイデンティティと持続的な連帯感を持ち、「思いやりと分かち合いのある社会」を構築することだとされている。多様なASEANが単一の構想、単一のアイデンティティ、単一の共同体を目指すうえで、この文化共同体の実現は、ASEAN経済共同体およびASEAN共同体構築全体に関わってくる大切な柱であり、その成功が重要となってくる。文化共同体の最優先課題は、ASEAN共同体構築のためにASEAN域内の教育の役割を強化することである。そして、社会の活力を引き出す上でかかせない女性の社会進出という観点からは、ASEAN経済共同体構築にかかせない喫緊の課題である。ここにまさに、宝塚歌劇団がアジアコスモポリタン賞を受賞した理由がある。

女性のみの歌劇団として、男役も女性が演じきることで、女性の持つその可能性を深く追求し、多くの女性に夢と感動、インスピレーションを与えてきた業績は高い評価に値する。女性の社会進出が注目を浴びつつある中、これまで100年に渡り継続的に公演を開催してきた当劇団は、以後日本における女性の社会進出のひとつの規範として脈脈と語り継がれることになる。

宝塚歌劇団の育成制度の特色として劇員全員はその養成機関である「宝塚音楽学校」を卒業することが求められる。そこで「清く正しく美しく」のモットーの下、各人が女性として、社会人として、その教養を高めていく理念は、普遍的に教育の重要性を反映しているともいえる。女性の社会進出という言葉が程遠かった閉鎖的社会的時代に発足し、100年にわたりその教育制度を支え、そして女性のみの歌劇団の持つその独創的なアイデンティティを保持し続けている宝塚歌劇団の活躍とその崇高さは、女性の積極的活用を具現化するひとつの形として今後も注目されるであろう。

上演作品に目を転じると1914年の初演以来、自主制作の作品だけでなく、西洋文学から漫画を含む和物まで幅広い公演レパートリーで劇団としての文化的多様性を保持してきた。シェークスピアの「ロミオのジュリエット」から洋画「風と共に去りぬ」、大ヒット作となった「ベルサイユのばら」から韓国テレビドラマ「太王四神記」まで、さまざまなジャンルの作品がファンの心を捉えている。年間の公演数は約1,300回、観客動員数は約250万人にのぼる。

そしてその長い歴史の中で、早くも1938年のヨーロッパ公演を実施したのを皮切りに、これまで世界各地で25回以上の海外公演を行っている。近年のアジアでは1999年の中国公演をはじめ、2005年には韓国公演を成功させた。この積み重ねを通じて、女性の魅力を世界にアピールしてきたが、今後アジアを含む海外展開をより積極的に展望している中で、この劇団の価値観が広く共有され東アジアの持続可能で接合的な社会を構築する一助となることを期待する。